



2019年7月2日

各 位

会 社 名 株式会社放電精密加工研究所  
 代 表 者 名 代表取締役社長 工藤 紀雄  
 (コード番号 6469)  
 問合せ先責任者 常務取締役管理部長  
 役職・氏名 大村 亮  
 電 話 046-250-3951

非連結決算への移行及び2020年2月期個別業績予想  
 並びに中期経営計画における業績目標の修正に関するお知らせ

当社は、下記の理由により2020年2月期第2四半期決算から非連結決算に移行いたしますので、連結業績予想に代えて、個別業績予想を下記のとおりお知らせいたします。併せて、2019年4月4日に公表いたしました中期経営計画における業績目標を連結から個別にするとともに、足許状況を勘案して下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 非連結決算への移行理由

2019年3月15日付「完全子会社の吸収合併(簡易合併)に関するお知らせ」にて公表したとおり、当社の完全子会社である株式会社ミヤギを吸収合併することにより、連結対象の子会社がなくなったため、2020年2月期第1四半期までは連結決算でしたが、2020年2月期第2四半期決算より非連結決算に移行することになります。

## 2. 2020年2月期個別通期業績予想(2019年3月1日から2020年2月29日)

吸収合併により、本日付で公表しております子会社吸収合併に伴う特別利益(抱合せ株式消滅差益)の発生に関するお知らせの通り、2020年2月期第2四半期にて抱合せ株式消滅差益が330百万円計上されるとともに、最近の業績動向を踏まえた2020年2月期個別業績予想の数値を以下の通り算出いたしました。

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益 円 銭
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
第2四半期(累計)	5,294	△2.0	△81	—	△78	—	269	16.5	37.22
通期	11,524	4.1	165	△80.7	153	△82.5	291	△50.5	40.23

(ご参考)2019年2月期個別業績(2018年3月1日～2019年2月28日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,065	9.3	856	166.5	878	170.8	588	152.0	81.27

#### 前期との比較

売上高につきましては、前期と比較して458百万円の増収の見通しであります。その内訳は放電加工・表面処理セグメントで136百万円の増収、金型セグメントで160百万円の減収、機械装置等セグメントで482百万円の増収となる見込みです。

営業利益につきましては、前期と比較して691百万円の減益の見通しで、その内訳は放電加工・表面処理セグメントで254百万円の減益を見込んでおります。主な要因は環境・エネルギー関連のガスタービン部品で同時期に複数の新アイテム立ち上げによる原価高が見込まれることと、航空・宇宙関連の新しいアイテム獲得のための先行費用が発生するためであります。金型セグメントでは228百万円の減益を見込んでおり、主な要因は自動車排気ガス浄化用セラミックスハニカム押出用金型の減収や生産アイテムの変化などによるものであります。機械装置等セグメントでは23百万円の減益を見込んでおり、主な要因は子会社を吸収合併したことによる売上高は増加するものの、米中貿易摩擦の影響により機械販売及び自動車関連の受注が低迷するとみているためであります。また、セグメントに属さない全社費用として、184百万円の費用増加を見込んでおり、主な要因は海外営業部の立ち上げ費用、新事業創出に関する費用及びその他管理費の増加によるものであります。

当期純利益につきましては、前期と比較して297百万円の減益を見込んでおります。主な要因は特別利益として子会社合併による抱合せ株式消滅差益330百万円が計上されることと、特別損失として工場移転費用などを見込んだためであります。

(ご参考)2019年4月4日公表の通期連結業績予想(2019年3月1日～2020年2月29日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,146	7.6	195	△47.4	173	△59.1	106	△63.9	14.71
通期	12,080	3.4	722	△24.3	709	△31.1	415	△41.4	57.38

#### 連結業績予想との比較

売上高につきましては、連結業績予想と比較して556百万円の減収の見通しであります。その内訳は放電加工・表面処理セグメントで49百万円の減収、金型セグメントで44百万円の減収、機械装置等セグメントで462百万円の減収となる見込みです。

営業利益につきましては、連結業績予想と比較して557百万円の減益の見通しで、その内訳は放電加工・表面処理セグメントで202百万円の減益を見込んでおります。主な要因は環境・エネルギー関連のガスタービン部品で同時期に複数の新アイテム立ち上げによる原価高が見込まれることと、航空・宇宙関連の新しいアイテム獲得のための先行費用が発生するためであります。金型セグメントでは137百万円の減益を見込んでおり、主な要因は住宅関連のアルミ押出用金型などの減少によるものと自動車排気ガス浄化用セラミックスハニカム押出用金型の生産アイテムの変化などによるものであります。機械装置等セグメントでは140百万円の減益を見込んでおり、主な要因は連結決算から個別決算への移行で吸収合併した子会社の第1四半期の売上高及び営業利益が加味されないことと、米中貿易摩擦の影響により機械販売及び自動車関連の受注が低迷するとみているためであります。

当期純利益につきましては、連結業績予想と比較して124百万円の減益を見込んでおります。主な要因は減益による税金費用の減少195百万円と特別利益として個別決算により子会社合併による抱合せ株式消滅差益330百万円が計上されることと、特別損失として工場移転費用など100百万円を見込んだためであります。

#### 4. 中期経営計画 2019 における業績目標の修正について

当社は、上記1の非連結決算への移行に伴い、2019 年4月4日に公表した中期経営計画 2019 を以下の通り、連結業績目標に代えて個別業績目標に変更いたします。

単位:百万円

	2019 年2月期 実績	2020 年2月期 業績予想	2021 年2月期 計画	2022 年2月期 計画
売上高	11,065	11,524	12,756	13,520
営業利益	856	165	908	1,075
経常利益	878	153	896	1,070
当期純利益	588	291	605	739

なお、この「中期経営計画 2019 の個別業績目標への修正」は、本資料策定時点において入手可能な情報に基づいて策定したものです。実際の業績などは、今後さまざまな要因によって記載内容と異なる可能性があり、急激なビジネス環境の変化、予測シナリオの見直しの必要性が認識される場合には、期中においてもローリングの実施を検討することといたします。

#### 【ご参考】2019 年4月4日公表の中期経営計画 2019 の業績目標(連結)

単位:百万円

	2019 年2月期 実績	2020 年2月期 業績予想	2021 年2月期 計画	2022 年2月期 計画
売上高	11,686	12,080	12,756	13,520
営業利益	955	722	908	1,075
経常利益	1,030	709	927	1,101
当期純利益	709	415	637	771

以 上